

杉山小学校の ESD 活動

＜活動の概要＞

- ・環境への意識を高め、地域の「もの・ひと・こと」に関わる活動を通して、地域が好きになり、「杉山」と関わる子を育む。
- ・具体的には、地域と学校が協力して開催する行事や総合的な学習の時間・生活科の時間を柱に、①地域の環境や伝統文化、文化遺産に関わる活動、②地域社会に関わる学習、③防災に関わる学習を行った。

・活動の実際

① 地域の環境や伝統文化、文化遺産に関わる活動 (全校児童)

本校では、地域と学校が協力して「杉山グリーンウォーク」を開催している。この行事は、家族で校区内の自然環境や文化遺産などをめぐり、杉山校区のよさを再発見することを目的としている。コースは全部で4つあり、毎年異なるコースを選んで参加し、汐川干潟や豊橋名木100選のホルトノキ、寺や神社、農園や牧場など、多くのポイントを歩く。それと同時に、ごみ拾い(530)活動を行い、地域の環境にも目を向けている。

地域の多くの方々がボランティアとして協力し、建物や史跡の説明やごみの分別を行い、今年度は卒業した中学生もボランティアとして活動に参加した。

地域を知り、人々のつながりを深める行事となっている。



杉山グリーンウォーク

② 地域社会に関わる学習(2・3・4年生)

杉山校区は、農業が盛んな地域である。低学年は「地域のよさを理解していく時期」と捉え、地域の方々の協力を得た活動を多く取り入れている。

2・3年生は、「おいも先生」や「農業ボランティア」など地域の方に教えてもらいながら、毎年、サツマイモやスイカ、冬野菜の栽培・収穫を行っている。4年生は、主に地域の環境学習に取り組み、「汐川干潟を守る会」の講師の話聞き、「杉山地域保全隊」の活動を知り、七股池の草取りや西南代公園のごみ拾いといった環境保全活動に取り組んだ。



3年「スイカの収穫」



4年「七股池の草取り」

③ 防災に関わる学習(6年生)

杉山校区には、津波発生時の避難施設として「天津防災センター」があり、校内には防災倉庫が設置されている。東日本大震災や能登半島地震などの過去の地震被害や対策を調べ、災害発生時の適切な行動や避難生活の向上のための備えを見直した。がの担当について、体験を交えて豊橋保健所の方に教えてもらったことで、災害対策への意識を高めた。学習発表会では、自分の命と地域の人々の命を守るための行動や備えを発表し、防災意識の向上を参観者に訴えた。



6年「出前講座 応急救護所」